

目次

前書き 2

写真提供 8

第1章 「表現」とは言いつれど……表現の前に必要なこと

9

(1) ないものは出てこない、いや、本当にはないのだろうか？

(2) いつも思い通りにいくとは限らないけれど

(3) 現代人の「聞く(聴く)力」の衰え

(4) 自己と向き合う——自分の意思を大切に

(5) 鑑賞や体験の大切さ——外堀を埋める

27 23 18 14 10



第2章 表現上手になるために

——うまくいく理由、うまくいかない理由がある

31

(1) 生活時間の中で——自分との約束

32

(2) 美しい音は、理にかなったフォームから

36

(3) なくて七癖——根拠のない習慣

41

(4) 観察の大切さ

45

(5) 「楽譜が読めない」「譜読みが遅い」という問題

49

第3章 カラフルな音楽表現を目指して

53

(1) 立体的な音楽にする作業——「タッチ」は基本ですが……

54

(2) 心から心へ——何を伝えたいか？

58

(3) 想像と創造——豊かなイマジネーションを持つ訓練

62



第4章 血が繋がらないのに遺伝する——師匠との出会い

75

- (4) 自分の言葉で答える大切さ——答えを待つ大切さ
- (5) マニュアル化世代の危うさ

70 66

- (1) 山田 淳子(やまだ あつこ) 先生——幸運の始まり
- (2) 下村 和子(しもむら かずこ) 先生——基礎から発展へ
- (3) Max Egger (マックス・エッガー) 先生

81 77

——ヴィルトウオーゾ(巨匠)的な表現へ

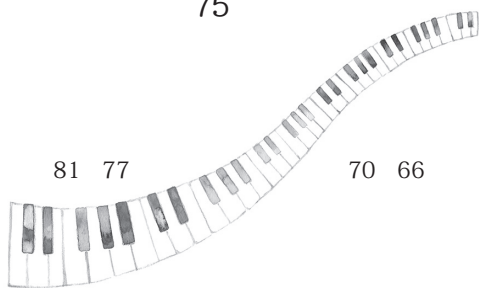
86

- (4) Robin Bowman (ロビン・ボウマン先生)——他者の喜びは自分の喜び
- (5) 鈴木 雅明(すずき まさあき) 先生——パイプオルガンでバロック音楽を
- (6) Ulrich Böhme (ウルリッヒ・ベーム) 先生

90 95

——コンサート・オルガニストとしての力量のある、良き教会オルガニストに

99





第5章 フレない価値観——人生の地下水

105

- (1) 幸運は誰にでもある——チャンスを生かせるか
- (2) N・F・S. グレントヴィの『全人教育』
- (3) カルチャーショックと親切な方々
- (4) 演奏家としての危機もありましたが

後書き

125

選暦記念リサイタルのプログラム

127